

■ 総門（重要文化財）

Somon
(Important cultural properties)
正面三間の薬医門形式
で正保年間の建立である。



総門

■ 石廟（県指定文化財）

Sekibyo
(Prefecture designated cultural properties)
前田利長、利家、織田信長、
同室正覚院、織田信忠の分
骨廟。石廟の中には、宝篋
院塔がまつられている。



石廟

■ 禅堂（重要文化財）

Zendo
(Important cultural properties)
坐禅修行をする建物であ
るが、坐禅だけではなく、食事、
睡眠もとれる生活空間である。
延享三年に焼失、直ちに再
建された。幕末に三分の一に
縮小され、今回の修理で再び
創建当初の姿に復元された。



禅堂

法堂右の般若の間には
烏瑟沙摩(うすさま)明王が
まつられている。等身大120
センチ。本来東司にまつられ、
下の仏様、安産の仏様とい
われる。



烏瑟沙摩明王像



山門

山門（国宝）

Sanmon (National treasure)

正保二年(1645)に建立され万治年間に場所を変えて建直す。延享三年(1746)
火災で焼失、現在の建物は文政三年(1820)に竣工した。当時としてはめずらし
く和算により設計されている。

左右に金剛力士像を安置し、楼上には釈迦如来、十六羅漢をまつる。



法堂

法堂（国宝）

Hatto (National treasure)

明暦年間(1655～1657)の竣工に成る。建坪186坪。

境内第一の大建築、総檜造りとなっている。構造は方丈建築に書院建
築を加味したもので、六室より成っている。中央奥の内陣には二代藩主前
田利長の御位牌が安置されている。戒名は「瑞龍院殿聖山英賢大居士」。
中央二室の格天井には狩野安信の四季の百花草が描かれており、正面
内陣の欄間には高岡という地名の由来となった鳳凰が刻まれている。

沿革

History

曹洞宗高岡山瑞龍寺は、加賀二代藩主前田利長公の菩提をとむらうため
三代藩主利常公によって建立された寺である。

利長公は高岡に築城し、この地で亡くなった。加賀百万石を譲られた義弟
利常は、深くその恩を感じ、時の名匠山上善右衛門嘉広をして七堂伽藍を
完備し、広山恕陽禪師をもって開山とされた。

造営は正保年間から、利長公の五十回忌の寛文三年(1663)までの約二
十年の歳月を要した。当時、寺域は3万6千坪、周囲に壕をめぐらし、まさに城
郭の姿を想わせるものがあつた。

平成9年12月3日、山門、仏殿、法堂が国宝に指定された。また、総門、禅堂、
大庫裏、回廊、大茶堂が国の重要文化財に指定されており、江戸初期の禪
宗寺院建築として高く評価されている。



大庫裏

■ 大庫裏（重要文化財）

Oguri
(Important cultural properties)

調理配膳や寺務運営を
行う堂である。天井が漆喰
で曲線になり結露に配慮し
てある。正面には韋駄天尊
像がまつられている。



■ 大茶堂（重要文化財）

Daisado (Important cultural properties)

創建当初に造られたもので、その存在は全国的に類例は少ない。その構
造は外壁や軒下を土蔵と同じ大壁とし、内部を土天井とした大変珍しい防
火建築物である。